

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	:	クロロ酢酸
SDS コード	:	E3-06
供給者の会社名称	:	
林純薬工業株式会社		
住所	:	大阪府大阪市中央区内平野町 3 丁目 2 番 12 号
電話番号	:	06-6910-7305
E-mail	:	shiyaku_kikaku@hpc-j.co.jp
URL	:	https://direct.hpc-j.co.jp/
緊急連絡電話番号	:	06-6910-7305
推奨用途	:	試験研究用
使用上の制限	:	人体又は動物用の医薬品、食品、家庭用品、化粧品等には使用しない事

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS 分類

物理的危険性	爆発物	区分に該当しない	
	可燃性ガス	区分に該当しない	
	エアゾール	区分に該当しない	
	酸化性ガス	区分に該当しない	
	高圧ガス	区分に該当しない	
	引火性液体	区分に該当しない	
	可燃性固体	分類できない	
	自己反応性化学品	区分に該当しない	
	自然発火性液体	区分に該当しない	
	自然発火性固体	区分に該当しない	
	自己発熱性化学品	分類できない	
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない	
	酸化性液体	区分に該当しない	
	酸化性固体	区分に該当しない	
	有機過氧化物	区分に該当しない	
	金属腐食性化学品	分類できない	
	鈍性化爆発物	分類できない	
	健康有害性	急性毒性 (経口)	区分 3
		急性毒性 (経皮)	区分 2
		急性毒性 (吸入: 気体)	区分に該当しない
急性毒性 (吸入: 蒸気)		区分に該当しない	
急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)		区分 2	
皮膚腐食性/刺激性		区分 1	
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		区分 1	
呼吸器感作性		分類できない	
皮膚感作性		分類できない	
生殖細胞変異原性		分類できない	
発がん性		分類できない	
生殖毒性		分類できない	

環境有害性	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 1 (神経系, 呼吸器系, 心臓血管系, 血液系, 肝臓, 腎臓)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 2 (心臓, 肝臓, 腎臓)
	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期(急性)	区分 1
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分 1
	オゾン層への有害性	分類できない

絵表示  
(GHS JP)



GHS05



GHS06



GHS08



GHS09

注意喚起語 (GHS JP)

: 危険

危険有害性 (GHS JP)

: 飲み込むと有毒 (H301)  
皮膚に接触した場合や吸入した場合は生命に危険 (H310+H330)  
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷 (H314)  
臓器の障害 (神経系、呼吸器系、心臓血管系、血液系、肝臓、腎臓) (H370)  
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (心臓、肝臓、腎臓) (H373)  
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性 (H410)

注意書き (GHS JP)

安全対策

: 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。(P260)  
眼、皮膚、衣類につけないこと。(P262)  
取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264)  
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)  
屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。(P271)  
環境への放出を避けること。(P273)  
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)  
[換気が不十分な場合]呼吸用保護具を着用すること。(P284)

応急措置

: 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。(P301+P310)  
飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。(P301+P330+P331)  
皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。(P303+P361+P353)  
吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)  
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)  
ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。(P308+P311)  
直ちに医師に連絡すること。(P310)  
気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。(P314)  
汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P361+P364)  
漏出物を回収すること。(P391)

保管

: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)  
施錠して保管すること。(P405)

廃棄

: 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 化学物質

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
クロロ酢酸	≥97.0%	CH <sub>2</sub> ClCOOH	(2)-1145	既存化学物質	79-11-8

上記濃度又は濃度範囲は、規格値ではありません。

上記濃度又は濃度範囲に記載の%は、個別表記があるものを除き、全て重量%となります。

### 4. 応急措置

#### 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。  
多量の水と石鹼で優しく洗うこと。  
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 眼に入った場合 : 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用してい  
て容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。  
直ちに医師に診断／手当てを受けること。

### 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水噴霧、耐アルコール泡消火剤、乾燥粉末消火剤、二酸化炭素、砂
- 使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。
- 爆発の危険 : 加熱により、容器が爆発するおそれがある。
- 火災時の危険有害性分解生成物 : 火災時に刺激性もしくは有毒なフュームまたはガスを発生する。
- 消火方法 : 着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に  
消火する。  
周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。  
移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。  
消火に使用した水が環境中に流出しないようにする。  
消火後も大量の水を用いて容器を冷却する。
- 消火時の保護具 : 消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。

### 6. 漏出時の措置

#### 人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置 : 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。  
関係者以外の立ち入りを禁止する。  
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。  
作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な  
保護具を着用し、風下で作業行わない。

#### 環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。  
下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。

#### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 浄化方法 : 粉塵を発生させないように注意し、できるだけ掃き集めて密閉できる空容器に回収  
し、安全な場所に移動する。  
回収跡は多量の水で洗い流す。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

技術的対策 : 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業する。

漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分にする。

安全取扱注意事項 : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗いうがいをする。

作業所の十分な換気を確保する。

接触、吸入又は飲み込まないこと。

接触回避 : 長時間または反復の暴露を避ける。

### 保管

安全な保管条件 : 施錠して保管すること。

直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。

安全な容器包装材料 : 遮光した気密容器。

技術的対策 : 適用法令を遵守する。

保管温度 : 冷暗所保管

## 8. ばく露防止及び保護措置

ばく露限界値	
クロロ酢酸	
許容濃度(ACGIH)	TWA 0.5 ppm(IFV), STEL - (Skin)

設備対策 : 取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

### 保護具

皮膚及び身体の保護具 : 保護服、保護長靴、保護前掛け

眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

手の保護具 : 保護手袋

呼吸用保護具 : 防塵マスク

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 固体

外観 : 結晶

色 : 無色 ~ 淡い黄色

臭い : 刺激臭

pH : ≤ 1 (80%水溶液、20°C)

融点 : 60 - 63 ° C

凝固点 : データなし

沸点 : 189 ° C

引火点 : 126 ° C (密閉式)

自然発火点 : データなし

分解温度 : データなし

可燃性 : データなし

蒸気圧 : 0.2 hPa (20°C)

相対密度 : データなし

密度 : 1.58 g/cm<sup>3</sup> (20°C)

相対ガス密度 : 3.3 (空気=1)

溶解度	: 水に易溶。アルコールに可溶。ベンゼンに可溶。クロロホルムに可溶。ジエチルエーテルに可溶。
n-オクタノール/水分配係数(Log Pow)	: 0.2
爆発限界 (vol %)	: ≥ 8 vol %
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: 通常の取扱い条件では安定である。潮解性がある。
危険有害反応可能性	: 燃焼すると分解し、塩化水素、ホスゲンなどの有毒なフュームを生じる。塩基、酸化剤、還元剤と反応する。金属類を侵す。
避けるべき条件	: 日光、湿気、熱、火花、裸火、静電気等の着火源。塩基、酸化剤、還元剤、金属類との接触。
混触危険物質	: 塩基、酸化剤、還元剤、金属類
危険有害な分解生成物	: 塩化水素、ホスゲン

## 11. 有害性情報

クロロ酢酸	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値として、55-580 mg/kg の範囲内で 11 件 (55-165 mg/kg (IPCS, PIM 352)、55-200 mg/kg (ECETOC TR081 (2001))、55-580 mg/kg (ACGIH (7th, 2006))、90.4-450 mg/kg (NITE 初期リスク評価書 (2008))、55 mg/kg (EU-RAR (2005)、環境省リスク評価第 3 巻: 暫定的有害性評価シート (2004))、76.2 mg/kg (ACGIH (7th, 2006)、ECETOC JACC 038 (1999)、NTP TR396 (1992))、90.4 mg/kg (EU-RAR (2005)、SIDS (2004)、ECETOC JACC 038 (1999))、100-300 mg/kg (SIDS (2004))、102 mg/kg (ECETOC JACC 038 (1999))、108 mg/kg (NTP TR396 (1992))、277.5 mg/kg (EU-RAR (2005)、SIDS (2004))) の報告がある。最も多くのデータ (7 件) が該当する区分 3 とした。なお、4 件のデータは複数データをまとめた値であるため該当数に含めずに分類した。
急性毒性 (経皮)	ラットの LD50 値として、145 mg/kg (NITE 初期リスク評価書 (2008)、ACGIH (7th, 2006))、305 mg/kg (EU-RAR (2005)、SIDS (2004)、ECETOC JACC 038 (1999)) との 2 件の報告がある。区分 2 及び区分 3 にそれぞれ 1 件ずつ該当するので、ラットについては、LD50 値の最小値が該当する区分 2 となる。ウサギの LD50 値として、178 mg/kg (SIDS (2004))、230 mg/kg (IPCS, PIM 352)、250 mg/kg (EU-RAR (2005)、SIDS (2004)、ECETOC JACC 038 (1999)) との 3 件の報告がある。1 件が区分 2、2 件が区分 3 に該当するので、ウサギについては、最も多くのデータが該当する区分 3 となる。ラットとウサギの区分を比較し、危険性の高いラットの区分を採用し、区分 2 とした。
急性毒性 (吸入: 気体)	GHS の定義における固体である。
急性毒性 (吸入: 蒸気)	GHS の定義における固体である。なお、ラットの LC50 値 (1 時間) として、> 66 ppm (4 時間換算値: > 33 ppm) との報告 (NITE 初期リスク評価書 (2008)、EU-RAR (2005)、SIDS (2004)) があるが区分を特定できない。20°C における飽和蒸気圧濃度 (137 ppm) (EU-RAR (2005)) より LC50 値が低いため、ミストを含まないものとして ppm を単位とする基準値を適用した。
急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)	ラットの LC50 値 (4 時間) として、0.18 mg/L との報告 (NITE 初期リスク評価書 (2008)、ACGIH (7th, 2006)、EU-RAR (2005)、SIDS (2004)) に基づき、区分 2 とした。なお、20°C における飽和蒸気圧濃度 (0.53 mg/L) (EU-RAR (2005)) よりも低い、試験はエアロゾルで行われたとの記載 (ACGIH (7th, 2006)) に基づき、ミストの基準値を適用した。
急性毒性 (吸入: ミスト)	データなし
皮膚腐食性/刺激性	本物質は強酸性である (pH < 1 at 800g/L, 20°C, GESTIS (Access on July 2015))。ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、500 mg を 24 時間の閉塞適用した結果、2 匹が死亡し、重度の紅斑および浮腫がみられ皮膚一次刺激指数は 7.66 (最大値 8) であった (ECETOC JACC 38 (1999)) との報告や、本物質の 75% 溶液 0.5 mL を適用した結果 30 秒後に壊死がみられたとの報告がある (SIDS (2009))。その他に、ラットやマウスを用いた試験において本物質適用による腐食性が報告されている (EU-RAR (2005)、NITE 初期リスク評価書 (2008))。また、ヒトの接触事故により化学火傷を引き起こしたとの報

クロロ酢酸	
	告が複数ある (EU-RAR (2005)、NITE 初期リスク評価書 (2008))。以上より、ウサギにおいて適用後 30 秒後に壊死がみられたことから区分 1A とした。なお、本物質は EU CLP 分類において「Skin. Corr. 1B H314」に分類されている (ECHA CL inventory (Access on September 2015))。
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギを用いた眼刺激性試験において、本物質 100 mg を 0.9%食塩水 0.01 mL に溶解して適用した結果腐食性がみられたとの報告や、本物質の高濃度溶液を適用した結果腐食性がみられたとの報告がある (EU-RAR (2005)、NITE 初期リスク評価書 (2008)、ECETOC JACC 38 (1999))。また、本物質は皮膚腐食性/刺激性の区分で区分 1A に分類されている。以上より区分 1 とした。
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。なお、ウサギを用いた皮膚感作性試験 (Open epicutaneous 試験) で感作性なしとの報告 (EU-RAR (2005)、NITE 初期リスク評価書 (2008)、ECETOC JACC 38 (1999)) があるが、ガイダンス従い分類に用いなかった。
生殖細胞変異原性	ガイダンスの改訂により区分外が選択できなくなったため、分類できないとした。すなわち、in vivo では、マウス骨髄細胞の染色体異常試験で陽性及び陰性の結果 (初期リスク評価書 (2008)、ECETOC JACC 038 (1999))、マウスの肝臓、脾臓、十二指腸、胃の DNA 損傷試験及びラットの肝臓の DNA 損傷試験で陰性である (NITE 初期リスク評価書 (2008)、EU-RAR (2005)、ECETOC JACC 038 (1999))。In vitro では、哺乳類培養細胞のマウスリンフォーマ試験で陽性結果があるが、それ以外のデータ、すなわち、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験、遺伝子突然変異試験 (HGPRT)、DNA 損傷試験で陰性の結果である (初期リスク評価書 (2008)、SIDS (2004)、EU-RAR (2005)、ACGIH (7th, 2006)、ECETOC JACC 038 (1999)、NTP TR396 (1992))。なお、in vivo のマウス骨髄細胞染色体異常試験の陽性結果については、十分な評価ができないと記載されている (ECETOC JACC 038 (1999))。また、SIDS (2004)、EU-RAR (2005)、ECETOC JACC 038 (1999) ではいずれも本物質に変異原性はないと結論している。
発がん性	ヒトでの発がん性に関する情報は無い。実験動物では、ラット、又はマウスに 2 年間強制経口投与した発がん性試験において、ラット、マウスの雌雄ともに対照群と比べ生存率の低下がみられる用量 (ラット: 30 mg/kg/day、マウス: 100 mg/kg/day) まで投与しても、腫瘍発生の増加はみられなかった (ACGIH (7th, 2006)、EU-RAR (2005)、NITEI 初期リスク評価書 (2008)) との記述、並びにマウスに本物質を 46.4 mg/kg/day で 21 日間強制経口投与後、さらに 17 ヶ月間混餌投与 (149 ppm: 24.8 mg/kg/day 相当) した試験でも腫瘍発生がみられなかった (ACGIH (7th, 2006)、NITE 初期リスク評価書 (2008)) との記述がある。また、経皮経路では、雌マウスに本物質 2 mg/動物を 3 回/週、63 週間皮膚へ塗布した結果、皮膚の腫瘍は乳頭腫を含め発生しなかった (EU-RAR (2005)、ACGIH (7th, 2006)、NITE 初期リスク評価書 (2008)) との記述、及び雌マウスに同 0.5 mg/動物を 1 回/週、63 週間皮下注射した結果、投与群では局所の肉腫が 3/50 例 (対照群: 1/50 例) にみられたが、統計的に有意な増加ではなかった (EU-RAR (2005)、ACGIH (7th, 2006)、NITE 初期リスク評価書 (2008)) との記述がある。すなわち、実験動物では経口及び経皮経路で発がん性を示す証拠はないが、吸入経路での発がん性に関する情報は無い。ACGIH は本物質の発がん性分類を A4 としている (ACGIH (7th, 2006)) が、他の国際機関による分類結果はない。以上、区分外とするにはヒトで利用可能な情報がないことも含め、データが不足していると判断し、本項は分類ガイダンスに従い分類できないとした。
生殖毒性	ヒトの生殖影響に関する情報は無い。実験動物では、妊娠ラット (例数不明) の器官形成期 (妊娠 6-15 日) に強制経口投与した結果、最高用量の 140 mg/kg/day で、母動物に体重増加抑制、胎児に心血管系の奇形 (主に左胸心 (levocardia)) がみられたと報告されている (ACGIH (7th, 2006)、EU RAR (2005)、NITE 初期リスク評価書 (2008))。しかし、本報告は原著確認の結果、学会の講演要旨としての簡略な記述のため分類に用いるには不適切な試験結果と判断された。この他、妊娠ラット (10 匹/群) の妊娠期間を通して飲水投与した発生毒性試験では、母動物、胎児ともに異常はみられていない (ACGIH (7th, 2006)、EU RAR (2005)、NITE 初期リスク評価書 (2008)) との記述、並びに in vitro の胎児培養実験の結果、神経管欠損、心臓奇形など奇形発現頻度の増加がみられた (EU RAR (2005)、ACGIH (7th, 2006)) との記述がある。以上、本項はデータ不足のため、分類できないとした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	本物質は、腐食性を有し、眼、皮膚、気道に激しい局所刺激症状を引き起こす。本物質による複数のばく露中毒例 (経口、吸入、経皮を含む) が報告されている。吸入ばく露で気道刺激性、肺水腫、経口ばく露では中等度～重度の急性全身毒性、経皮ばく露では

クロロ酢酸	
	<p>重度の急性全身毒性を示す(以上、ACGIH (7th, 2006))。中毒例のうち多くの事例は、経皮ばく露によるものであり、8 件が死亡例、15 件が生存例であるが、いずれも臨床症状ならびに(血液)生化学的特徴は類似する。すなわち、急性症状としては、皮膚腐食性による火傷、皮膚傷害に始まり、全身毒性が現れる。全身毒性発症の早期には、嘔吐、下痢を呈し、その後、興奮、見当障障害、痙攣、昏睡などの中枢神経系障害、重度の代謝性アシドーシス、低カリウム血症、低カルシウム血症、ミオグロビン血症、白血球増加症、(血液)凝固障害、高血糖、血圧低下、不整脈、頻脈を伴う心臓障害、心筋障害、心血管ショック、それに起因する腎不全(12 時間以内との記載あり)、腎尿細管壊死などを引き起こす(ECETOC TR081 (2001)、ECETOC JACC 038 (1999)、ACGIH (7th, 2006)、初期リスク評価書(2008)、ACGIH (7th, 2006)、EU-RAR (2005)、環境省リスク評価第 3 巻: 暫定的有害性評価シート(2004))。実験動物では、ラットの 55-580 mg/kg の経口投与で、呼吸数減少、間代性・強直性痙攣、ラット、マウス、ウサギの経口投与または経皮適用で、神経行動学的影響や前肢の麻痺など神経毒性影響が報告されている。ラット、マウス、ウサギの経皮適用で重度の毒性が認められ、40%溶液 0.5 mL の経皮適用では、表皮及び内皮組織の膠原線維束の変性、急性全身影響として肝臓の肝細胞傷害、腎不全、糖新生障害、アンモニア代謝障害などを引き起こすとの報告がある(EU-RAR 52 (2005)、初期リスク評価書(2008)、ACGIH (7th, 2006)、EU-RAR (2005)、SIDS (2004))。以上より、本物質は中枢神経系及び末梢神経系、呼吸器、心血管系、血液系、肝臓、腎臓に影響を与え、区分 1(神経系、呼吸器、心血管系、血液系、肝臓、腎臓)とした。なお、中枢神経系及び末梢神経系をまとめ「神経系」、また、肝臓、腎臓への影響については、代謝や血液系などに起因した影響とも考えられるが、本物質投与により急性的に現れる臓器障害であり、区分対象とした。新しい情報を追加し旧分類を見直した。</p>
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	<p>ヒトに関する情報はない。実験動物では、ラットを用いた 13 週間強制経口投与毒性試験において、60 mg/kg/day (90 日換算: 43 mg/kg/day) 以上で心筋症、心筋症による死亡、血清 BUN・ALT・AST の増加、肝臓・腎臓の相対重量増加がみられた(NTP TR396 (1992)、初期リスク評価書(2008)、ECETOC JACC 038 (1999)、EU-RAR (2005))。また、ラットを用いた 90 日間強制経口投与毒性試験(飲水投与)において、19 mg/kg/day で肝臓の絶対重量減少、肝臓門脈域の胆管増殖、浮腫、炎症性細胞増加が報告されている(初期リスク評価書(2008)、ECETOC JACC 038 (1999)、EU-RAR (2005))。また、単回投与において腎尿細管壊死などがみられている。以上のように心臓、肝臓、腎臓に対する影響が区分 2 の範囲でみられた。したがって、区分 2(心臓、肝臓、腎臓)とした。</p>
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

## 12. 環境影響情報

クロロ酢酸	
水生環境有害性 短期(急性)	藻類(セネデスムス)72 時間 EC50 = 0.033 mg/L (EU-RAR, 2005、NITE 初期リスク評価書, 2008)であることから、区分 1 とした。
水生環境有害性 長期(慢性)	急速分解性があり(試験期間 3 週間の標準法で、BOD : 65.0%、TOC : 98.8%、GC : 100% (通産省公報, 1976)、4 つの試験で、10-14 日間ウインドウで 60-70% の分解度を示した (EU-RAR, 2005))、藻類(Pseudokirchneriella subcapitata) の 72 時間 NOEC < 0.005 mg/L (NITE 初期リスク評価書, 2008)であることから、区分 1 とした。
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

## 13. 廃棄上の注意

- 化学品(残余廃棄物) : 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
- 汚染容器及び包装 : 容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。  
空容器は地域の条例に準拠してリサイクル、再利用または廃棄する必要がある。

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

#### 海上輸送(IMDG)

国連番号 (IMDG)	: 1751
正式品名 (IMDG)	: CHLOROACETIC ACID, SOLID
容器等級(IMDG)	: II
輸送危険物分類 (IMDG)	: 6.1 (8)
危険物ラベル (IMDG)	: 6.1、8
クラス(IMDG)	: 6.1
副次危険性 (IMDG)	: 8
区分(IMDG)	: 6.1
包装要件(IMDG)	: P002
IBC 包装要件(IMDG)	: IBC08
IBC 特別規定(IMDG)	: B21、B4
ポータブルタンク包装規定 (IMDG)	: T3
輸送特別規定-タンク(IMDG)	: TP33
積載区分 (IMDG)	: C
特性および観察結果 (IMDG)	: Colourless, very deliquescent crystals. Melting point may be as low as 50° C. In the presence of moisture, corrosive to most metals. Toxic if swallowed, by skin contact or by dust inhalation. Causes burns to skin, eyes and mucous membranes.

緊急時応急措置指針番号

: 153

#### 航空輸送(IATA)

国連番号 (IATA)	: 1751
正式品名 (IATA)	: Chloroacetic acid, solid
容器等級 (IATA)	: II
輸送危険物分類 (IATA)	: 6.1 (8)
危険物ラベル (IATA)	: 6.1、8
クラス (IATA)	: 6.1
副次危険性 (IATA)	: 8
区分(IATA)	: 6.1
PCA 微量危険物(IATA)	: E4
特別管制区(PCA)少量危険物(IATA)	: Y644
特別管制区(PCA)数量限定物の最大積載量(IATA)	: 1kg
PCA 包装要件(IATA)	: 668
特別管制区(PCA)最大積載量(IATA)	: 15kg
CAO 包装要件(IATA)	: 675
貨物機専用(CAO)最大積載量 (IATA)	: 50kg
ERG コード (IATA)	: 6C

#### 海洋汚染物質

: 該当

### 国内規制

海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報 : 航空法の規定に従う。

緊急時応急措置指針番号 : 153

#### 特別な輸送上の注意

: 運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。

## 15. 適用法令

### 国内法令

化審法 : 優先評価化学物質 (法第2条第5項)

労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)  
名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)  
クロロ酢酸 (政令番号 : 148 の 2、R6/4/1 以降 : 148 の 4)



毒物及び劇物取締法	: 劇物(法第2条別表第2) モノクロル酢酸
消防法	: 貯蔵等の届出を要する物質(法第9条の3・危険物令第1条の10六別表2)
大気汚染防止法	: 有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質(中央環境審議会第9次答申) 揮発性有機化合物(法第2条第4項)(平成14年度VOC排出に関する調査報告)
外国為替及び外国貿易法	: 輸出貿易管理令別表第1の16の項
船舶安全法	: 毒物類・毒物(危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
航空法	: 毒物類・毒物(施行規則第194条危険物告示別表第1)
港則法	: その他の危険物・毒物類(毒物)(法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)
水道法	: 有害物質(法第4条第2項)、水質基準(平15省令101号)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	: 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1) クロロ酢酸(管理番号: 98)(100%)

## 16. その他の情報

参考文献	: 17423の化学商品(化学工業日報社) 国際化学物質安全性カード(ICSC) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE) ERG2020版 緊急時応急措置指針(日本規格協会)
その他の情報	: このSDSは林純薬工業株式会社の著作物です。当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。現時点における当該化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させてください。国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。当該物質の日本語によるSDSと他国言語にて翻訳されたSDSが存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。